第１回　日南市立地適正化計画策定委員会　議事メモ

日　　時：令和6年12月23日（月）13:30～15：00
場　　所：本庁舎付属棟会議室（飫肥杉TOP館）
出　席　者：宮崎大学 地域資源創成学部 講師、日南保健所 総務企画課長、
日南土木事務所 工務課長、日南市自治会連合会 会長、日南市農業委員会 会長、
日南商工会議所 事務局長(欠席)、九州旅客鉄道株式会社 企画運輸課長 代理、
宮崎交通株式会社 日南営業所長、宮崎県タクシー協会、（一社）南那珂医師会 理事、
（NPO）子育てサポートにちなん 理事長、（一社）日南市福祉協議会 事務局長、
（一社）宮崎県宅地建物取引業協会 県南支部理事（欠席）
事務局　　総合政策部長　　：宮口部長
未来創生課未来創生係　　：渡辺課長補佐、坂元主査
セントラルコンサルタント（株）：龍野、正岡

■委員会での意見

委員）　・今回はコンパクトシティという計画と同時並行して、人口減少を止めないことにはますます衰退していくことは変わらないと思います。高校卒業後の若い世代が出ていくことで起こるので、相当する上位計画がないのかなと思います。

事務局）　・日南市の最上位計画は日南市重点戦略プランという計画で、令和6年度が今の第二期の最終年度、令和7年度からは5ヵ年計画を現在策定しておりまして、パブリックコメントを12月14日から来年1月5日まで募集しているところですので、そちらでも忌憚のない意見を頂戴できればと思います。

委員）　・対象範囲に北郷・鵜戸地区等が入っていないようですが、なぜでしょうか。

事務局）　・対象区域として、資料16ページにある日南都市計画区域、油津から飫肥・東郷を含んだものと南郷のめいつから栄松等までが区域として設定しています。北郷につきましては都市計画区域が設定されていませんので、この立地適正化計画には入っておりません。また都市計画区域は日南市と旧南郷町が設定しております。

委員）　・北郷町は大きな施設もあるので、何らかの対応をしていく必要があると思います。

事務局）　・まちづくりとしては日南市全体で計画を行います。
・２つの都市計画区域だけを見て計画を作るのではなく、日南市全体を見て、日南市全体の方針を決めた中でその制度に当てはまるものが、この二つの区域であるので、全体のまちづくりの計画があって、その中で北郷の方針を謳いますが、国の制度には当てはまらないということで、市の計画の中でマスタープランなど整合を図りながら、進めていくということです。

委員）　・北郷等を小さな拠点としてまちづくりとしてどう考えていくかと理解しております。

・公共交通網形成計画との整合性をどう考えていくのか、この計画と同時進行で進めていくのか、この計画をたててから交通網計画を立てていくのか、それによって話の進め方も変わってくるため、スケジュールについて教えていただきたいです。
・出していただいているデータが、日南市のデータと、都市計画区域の中だけのデータが混在していて、判断しづらいので、データの整理をしていただきたいです。

事務局）
・細分化できるデータについては、見えるような形でお示しします。
・公共交通網形成計画についてですが、来年度から見直しをしてくことを検討しています。これは、重点戦略プランを策定しておりまして、立地適正化計画との整合性を図るためにも、来年度、再来年度にかけて策定しようと検討しているところです。

委員）
・それぞれの地域の方針を見据えたうえでのストーリーを描いていただければと思います。

委員）
・アンケートの回収結果については、どの程度参考にしていいのでしょうか。
・立地計画区域と区域外を分けて分析する必要があるのではないでしょうか。

事務局）
・アンケートについて実際は900通ほど返ってきていましたが、回答されていない方などの回答は除き、有効と思われるもので集計した結果が、27.5％となっております。大体こういったアンケートは30％～35％ぐらいだと思います。若干少なかったですが、良い回答率だったと感じています。
・対象区域と区域外を分けて分析することについては、その通りだと思いますので、きれいに線は引けないかもしれませんが、違いが出てくるのか分析してみたいと思います。それについては次回報告させていただきたいと思います。

委員）
・このようなアンケートを無作為に投函すれば、回答者の年齢が高くなります。これと同じようなアンケートをQRコードなどで、高校生等の若い世代に回答していただくことが今からでも可能であれば行ってほしいです。意識調査だけでなく、災害に対する教育でも役に立つと思います。
・地区別や計画範囲内外、年齢別、世代別でも分析していただければと思います。

事務局）
・若者に対するアンケートについては、調整をして、検討したいと思います。

委員）
・危険なところに住んでいるという認識がないように思いました。移住してもらうような計画・意識づけについて考えてほしいです。

委員）
・アンケートは高齢者の意見が大きく反映されていると思いますが、医療施設は診療科によって、ニーズが変わると思います。産婦人科・皮膚科等がない状態なので、そこを工夫していただけるとありがたいです。

事務局）
・高齢者の人口の減り方は緩やかで、そういった方は医療が非常に大事な年齢層になっています。重点戦略プランでのアンケートで、市民の不安が大きい

のは地域医療に関することです。市の施策として、診療所に補助金を与えるなどの手を打っていきたいと思っているところでございます。

委員）　・重点戦略プランの新たな戦略として、ITを活用した新たな仕組みを構築しています。今オンライン診療もありますので、そういったものもうまく取り入れながら地域医療を支えていけないか考えています。日南市で完結するのが一番ですが、都市機能を誘導するというところで、そういった医療にも誘致をかけていくべきだと思いました。

以　上